令和８年度 福津市立福間東中学校　学力調査結果のお知らせ　令和８年９月２４日

4 月 22 日(水)、23 日（木）に 3 年生対象の「全国学力・学習状況調査」、5 月 21 日(木)、22 日（金）1、2 年生対象の「福岡県学力調査」が行われました。本年度は、「全国学力・学習状況調査」の英語において、（※）IRT 調査が行われました。各調査の結果および今後の学習指導の手立てについてお知らせいたします。**なお、学力調査の結果は、学力の特定の一部であり、学校の教育活動の一側面であるとされています。**

※IRT とは、 国際的な学力調査（PISA、TIMSS など）や英語資格・検定試験（TOEIC・TOEFL など）で採用されているテスト理論です。この理論を使うと、異なる問題から構成される試験・調査の結果を、同じものさし（尺度）で比較できます。

全国学力・学習状況調査　（3 年生対象）　結果

❶　学力調査平均正答率

本校の３年生の国語、数学の平均正答率は、全国平均とほぼ同じです。

本校の３年生の英語の IRT スコアは、全国平均とほぼ同じです。

❷　各教科の分析と方策

【成果】

＜国語＞「情報の扱い方」に関する事項で理解度が全国や県よりも高く、学習が身についています。「話す・聞く」「書く」「読む」いずれの分野においても正答率が高いだけでなく、記述式の問題に無解答の生徒も全国や県より少ない結果となっています。自分の意見をまとめ、表現する力を身につけています。

＜数学＞図形問題以外の分野では全国平均を上回る正答率となっており、日々の学習の成果が表れていると言えます。このことから、数や文字を用いて計算したり表現したりする力が身についていると考えられます。中でも関数については、すべての問題で全国平均をやや上回っています。

＜英語＞英語への苦手意識は高いものの、全国と同程度の IRT スコアとなっています。苦手意識を軽減しながら基礎的な内容を定着させるため、楽しく取り組める工夫をしており、それが【聞く・読む・書く・話す】の各領域において、比較的バランスの取れた結果となっています。難しい問題を解いて自信をなくしたときも、解説や演習を通して理解を深め、自信につなげられるような学習活動を設定しています。少しずつ「わかった・できた」という実感を積み重ねられるよう、今後も指導を工夫しています。

【課題と方策】

＜国語＞言葉の特徴や使い方に関する事項（言語の領域）で、漢字や語彙の知識、言葉の意味についての理解に課題が見られます。授業の中で難語句だけでなく、日常使われる言葉についても細かな確認をする必要があります。また文字（漢字も含む）を書くスピードが近年落ちており、ノートを書く作業に必要な時間の差が見られます。タブレットの活用だけでなく、文字を手書きする機会を意図的に設定することも必要であると考えます。

＜数学＞図形分野に課題がみられました。選択式や短答式の問題は概ね県平均との差がみられなかったため、図形分野に関する基礎的な知識や技能を身につけることができていると考えられます。一方で記述式の問題（三角形の合同の証明）は、無回答率は県平均との差がみられませんが、正答率は県平均を下回っているため、証明の仕方について十分に理解を深める必要があると考えます。

＜英語＞英作文に課題が見られました。英作文に挑戦しようとする生徒は多く見られましたが、語彙や文法のミスが目立ちました。これまでに学んだ内容の整理・定着に課題があり、それが生徒達の苦手意識にも繋がっていると考えられます。授業でもこれまでに学習した内容を復習する時間や、チャレンジ問題に取り組む時間を設定しています。今後も既習事項を活用して、英文を書く活動を継続していきます。

県学力調査 （1 年生、2 年生対象） 結果

【平均正答率】

本校の 2 年生の国語、英語は、県平均をやや上回っています。

本校の 2 年生の数学は、県平均とほぼ同じです。

本校の 1 年生の国語は、県平均とほぼ同じです。

本校の 1 年生の数学は、県平均とほぼ同じです。

今後の学力向上の方策について（全教科を通して）

これまで学力向上の方策として、以下の 3 点について取り組んできました。

❶ 基礎学力を定着させるために、自学ノート等を活用した日々の復習の実施

❷ 課題を解決するために、他者と協働して学び合う学習の場面の設定

❸ 単元を通して『主体的・対話的で深い学び』につながる課題解決型学習の設定

これらの方策を通して、今年度の３年生（全国学力学習状況調査）は全国平均とほぼ同じ結果、１・２年生（県学力調査）は教科により県平均をやや上回る結果となりました。特に、思考・判断・表現を評価する問題については成果を上げることができ、日常の協働活動や表現活動が成果として表れていると言えます。今後も子ども達の主体性を育成する授業作りを推進し、学力向上を目指します。